

行政評価シート（事務事業評価）		評価年度	4年度
事業名	文化財保存事業費	担当課	教育課
事業内容(簡潔に)	地域の指定文化財の保護活動支援及び市内文化財の保存と活用の検討		

### 1 計画(PLAN):事務事業の計画的位置づけ

第7次総合計画での目的体系	基本方向	誰もが「生きる」喜びを感じるまちづくり	
	政策	地域文化の創造・継承	
	施策	伝統文化の継承・地域の文化財の保護	
関連する個別計画等	韮崎市歴史文化基本構想	根拠条例等	韮崎市文化財保護条例

### 2 計画(PLAN):事務事業の概要

事業の目的	市内の文化財を保存・活用・継承していくことを通じて、地域のアイデンティティーを高めるとともに、教育及び文化の発展に寄与することを目的とする。
事業の手段	指定文化財の所有者の活動に対し補助金等を交付し、支援を行う。 新規指定文化財の候補について調査を行い、文化財審議委員会に諮る。
事業の対象	指定文化財および、その候補となる文化財ならびに指定文化財の所有者。

### 3 実施(DO):投入費用及び従事職員の推移(インプット=費用+作業)

		元年度	2年度	3年度
A	事業費 (千円)	5,062	1,374	4,562
財源内訳	国・県支出金	99	930	4,024
	その他(使用料・借入金ほか)	0	0	0
	一般財源	4,963	444	538
B	担当職員数(職員E) (人)	0.36	0.36	0.39
C	人件費(平均人件費×E) (千円)	2,417	2,367	2,566
D	総事業費(A+C) (千円)	7,479	3,741	7,128
主な事業費用の説明	指定文化財の保存等に関する補助金 令和元年度 武田八幡宮本殿修復工事 (屋根解体・木部補修・塗装工事ほか) 令和2年度 永岳寺の大カシ緊急対策事業・駒井上野のコナラ保全事業・願成寺仏像修復事業 令和3年度 武田八幡宮受信機取替工事・武田八幡宮境内文化財解説板修理工事・若宮八幡宮本殿保存修理工事・ 武田八幡宮の樹スギ支柱工事			

注)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した元年度(6,715千円)、2年度(6,575千円)、3年度(6,582千円)を使用しています。

### 4 実施(DO):事業を数字で分析(アウトプット=事業量)

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			元年度	2年度	3年度
ふるさと歴史再発見ウォークの開催数(回)	1	指定登録文化財件数(件)	76 (国5)	78 (国5)	78 (国5)
	2	指定文化財保全事業への補助件数(件)	4	4	5
	3	ふるさと歴史再発見ウォークの開催数(回)	3	1	2
妥当性	<input type="checkbox"/> A 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない				
上記活動指標と妥当性の説明	1	令和2年4月に大村家住宅主屋及び土蔵が国登録有形文化財に登録された。			
	2	指定文化財の所有者による保全活動に対する補助対応数。市民の共有財産としてき損等について適切に対応している。			
	3	令和2年度1回目は、新型コロナウイルス感染症の影響による緊急事態宣言を受け中止となった。文化財に触れ合う機会の創出を他の事業(各資料館の企画展等)に関連付けて行うことで、相乗効果も期待できる。			

5 評価(CHECK): 事務事業評価 (アウトカム=成果・効果)

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			元年度	2年度	3年度
成果指標 もしくは まちづくり 指標	1	指定文化財補助金対応割合 (%)	100 (4件)	100 (4件)	100 (5件)
	2	ふるさと歴史再発見ウォーク参加者数 (人)	38	25	45
	3				
成果		<input type="checkbox"/> A 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C 上がっていない			
上記指標の妥当性と 成果の内容説明	1	申請に対し、対応できている。			
	2	令和2年度1回目は新型コロナウイルス感染の影響による緊急事態宣言を受け中止となった。令和3年度は感染症対策をしながら実施した。			
	3				

事務事業総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成
----------	--

6 改善(ACTION): 今後の事務事業の展開

今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 拡大 (コストを集中的に投入する) <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善 (事務的な改善を実施する) <input type="checkbox"/> 全部改善 (内容・手段・コスト・実施主体等の見直しが必要) <input type="checkbox"/> 縮小 (規模・内容を縮小、又は他の事業と統合する) <input type="checkbox"/> 廃止 (廃止の検討が必要)			
事務事業の改善案	改善の概要・方向性 (いつまでに、どういう形で具体化するのか)			
	令和4年度の改善計画 (今後の事業展開説明) ・ 市内の文化財について、指定のかかっていないものも含めて、今後の文化財の保存・活用の拠点となる総合的に扱う施設の基本構想の策定を行う。			
改善の経過	・ 平成12年度以降、定期的なふるさと歴史再発見ウォークを開催している。 ・ 平成18年度以降、ふるさと歴史再発見ウォーク資料を冊子化し、参加者のみではなく、図書館での閲覧が可能な状況とした。 ・ 平成23年度に葦崎市歴史文化基本構想を策定。 ・ 令和3年度から青少年社会参加活動 (環境美化活動) と連携し、新府城跡での親子での清掃ボランティア活動に併せて見学会を開催し、小学校期から文化財に触れ、郷土愛を育む取組みを開始した。 ・ 学校教育や公民館活動の他に、子育て支援センターや青少年育成プラザ等との連携を深め、文化財の保存と活用の幅を広げた。			
直近の評価結果	内部評価	令和2年度	<input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止	
	評価時の改善案	・ ふるさと歴史再発見ウォークについては、中央公民館のみならず各地域公民館の協力を得て、参加者への分かりやすい解説の向上を図った。 ・ ふるさと歴史再発見ウォークで配布する冊子資料を図書館で閲覧できるようにする取組みを引き続き行った。 ・ 中学校の校外学習時にふるさと歴史再発見ウォークの冊子資料を提供し、文化財担当職員が現地に赴いて解説するなど学校教育との連携を深めた。		
	外部評価	対象外	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止	
	評価時の対応	対象外		
課長所見	周辺施設 (美術館・民間施設) と連携した大村家住宅の利活用や令和4年に国登録記念物に登録された徳島堰と絡めたウォーキングイベントの開催などの機会を通じ、地域への文化財への関心を高め、その保全と活用についての意識を高めていく取組みを継続していく。			